

# 様式 2

## 安曇野市食育推進会議（第4回） 会議概要

1	審議会名	安曇野市食育推進会議（第4回）
2	日 時	平成20年11月26日 午後1時30分から午後2時40分まで
3	会 場	穂高健康支援センター 集合指導室
4	出席者	広田直子会長、小松恵美子副会長、須澤大知委員、丸山泰彦委員、山田安子委員 安田万里子委員、丸山美代子委員、小柳由紀子委員、遠藤あゆみ委員、 高橋千治委員、山田泰子委員、藤田光世委員、丸山里多委員、飯澤裕美委員
5	市側出席者	丸山好夫部長、高橋道明課長、飯沼利雄課長、有賀朝一課長、平林今朝雄課長 （代理：南係長）、海野元秀係長、小松成江管理栄養士、 高橋正子保健師、丸山安基子歯科衛生士 他
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成20年10月28日
協 議 事 項 等		
1	会議の概要	<p>(1) 開 会</p> <p>(2) 会長あいさつ</p> <p>(3) 協議事項</p> <p>① 食育推進計画（案）について</p> <p>② その他</p> <p>(4) 閉会</p>
2	審議概要	<p>(1) 食育推進計画（案）について</p> <p>（事務局）「食育推進計画（案）」の修正点の説明</p> <p>（会 長）何かご質問がございますようでしたら、お願いします。</p> <p>（委 員）小・中学校共通の「食に関する指導の全体計画（各学校）」に、「保健指導、ほけんだより等」と追加したとご説明がありましたが、『ほけんだより』は、別のところに入れた方が良いと思います。</p> <p>（事務局）追加した経過としましては、養護の先生方から食育に関するご意見を頂いて、追加しました。保健指導というと体重測定などの時に話をしたり、保健室に来たときに話をしたりする部分と、ほけんだよりは定期的に家庭に通知しているという部分で共通した内容なので付け加えました。</p> <p>（委 員）「給食指導年間計画」に「給食だより」とありますので、その辺に入るかなと思ったのですが。</p> <p>（会 長）養護の先生がいらっしゃったと思いますが、何かご意見ございますでしょうか。</p> <p>（委 員）『給食だより』というのは給食センターから出されるものです。『ほけんだより』は養護教諭が学校から出すということで、給食に限ってではなく保健全般も含めてですので、食に関する指導の全体計画に入れて良いかと思えます。</p> <p>（委 員）『食育』という言葉というか、定義についてです。（計画の）最初の方から食育とはどういうことを言う、という言葉の定義はあまり書いてなくて、アンケート結果はあっても正解みたいなものが本文の中にはありません。用語解説で『食育』が載っているのですが、計画で食育という言葉を出していますので、第1章の「計画策定の背景と目的」あたりか、3章の頭のあたりにでも、食育とはどういうことなのか打ち出した方が分かりやすいと感じましたが、いかがでしょうか。</p> <p>（委 員）確かにそうで、良い意見だと思います。書くならやはり最初の第1章のところの、一番分かりやすいところに入れてもらえれば、良いのではないかと思いますけれども。</p> <p>（会 長）おっしゃる通りかなと私も感じます。では、そんな風に少し直して頂きたいと思います。</p> <p>（事務局）貴重なご意見ありがとうございました。こちらで検討させて頂きたいと思います。</p> <p>（委 員）それぞれの施策について、今回色々なところの代表が委員として来ていますが、具体的にどのように関わっていくのかといったことは計画の中には入れずに行動計画の中に入れ込むというのでよろしいのか、どうなのか。小中学校では栄養教諭という方達が各地域に配置されて食育を中心にやっています。その人たちの配置や活動分野なども、ここに書くの良いかなと思ったのですが。</p> <p>（事務局）これはあくまでも計画ということですので、細かい細部についてはあえて掲載していません。実際に食育を推進するにあたっては、実施マニュアル的なものを作成して、これから5年間かけて推進体制を築いて、事業も進めていきたいと考えています。庁内検討委員会でまた検討をしていながら、来年度には、また皆さまにお示しできるようなものを作成していきたいと考えております。</p> <p>（会 長）新しく加えるという説明があった部分は、実施内容の新規のものは「新規」と書かれているよう</p>

すが、そのあたりの補足というか書き込みはなさる予定なのでしょうか。

(事務局) 新規は「新規」というような形だけの表記にしようかと考えています。

(会長) 一般の人がパブリックコメントにした時に、新規の部分はよくご覧になるのではという気がしたので、新しくこんな事業が始まりますというのは、きちっと伝えて頂くとう方が良いかと思いました。

(委員) 「ライフステージに応じた施策の展開一覧」の妊娠期の食の安全という項目ですが、食の安全はすべての年代に共通する内容ですよ。食の安全は、食育の中で捉えると、食品衛生といったことになると思うんですけども、そういうものの感染症なり、色々な情報とか、そういうものを迅速に取り入れるような方法などは考えていますか。

(事務局) まだ詳細については、これから打合せをするところです。「地産地消・食の安全を含めた内容にする」を妊娠期に入れた理由としましては、妊娠を機に考え方も変わっていくだろうということもありまして、ここをスタートに、今後子育てをしたり、自分が生きていく中で少しでも動機付けに繋がればという意味合いで考えてきたところです。感染や食品衛生という部分については、ご意見を参考にさせて頂いて、また関係課と考えていきたいと思えます。

(会長) 何か補足の、こういう風にしたら良いのではないかとのご提案があるようでしたら、おっしゃって頂けたらありがたいと思えます。

(委員) 特には考えていないのですが、保健所からの色々な情報提供というのは適時頂けるのでしょうか。

(委員) 食品衛生についてや今の異物混入等については、適時県のホームページにアップしている、もしくは、メールで登録された方に随時流すというようなシステムはできております。周知として、そういうところを見れば分かるかと、相談窓口はここですといった、アピールはできると思えます。

(委員) では、特に市町村や行政へ情報を出すということはないんですね？

(委員) 市町村へも併せて文書で通知したり、ホームページなどで注意喚起はしています。

(委員) 「食事バランスガイド等を活用できるようにする」ということで、目標と目標値を掲げられています。『食事バランスガイド』以外に『食生活指針』もありますので、用語解説で取り上げるか、28頁の空いているところでちょっと紹介するのも良いかなと全体を見たときに感じましたが。

(会長) スペースが空いているので、もし工夫できるようなら。

関連で、「食事バランスガイドの啓発」というのが主な施策にあります。例えば、「料理講習会」や「健康教室」は、実施計画としてそういうものが開かれるのが分かりますが、「食事バランスガイドの啓発」と表現された時に、どんな風にする予定なのかというのが見えにくい。そういう項目「農業体験の環境づくり」なども、実際にはどういう風に進める予定なのかという内容が少し分かるような表現を入れたほうが良いのかなという気がしますが、いかがでしょうか。

(委員) 「農業体験の環境づくり」のこともそうですが、最初の「地区伝達講習会」というのもあります。実際に子ども達に教えるという活動をしていて思うのは、どんなところが・どんな方法で関わるのかということを決めてしまうと、その方法しかできない部分がありますが、門戸を広げた色々な人たちが関われる場所だということにしておかないと、ただバランスガイドに沿ったことだけでこうします、というようなことは難しいと思えます。どんな関わり方をすればいいかというのは慎重に考えて頂いて、みんなで関われるような方法でやっていかないと中々難しいのではと感じます。

(会長) 実際に、どんな風に施策として動かしていくのかというのが、ちょっと見えにくいかと気がしたので、もし表現できるのであれば、ご検討頂ければありがたいと思えます。

(委員) 目標値の中に「男性の肥満の減少」とありますが、これはなぜ男性限定なのでしょう。

(事務局) 市の健診を受けた方の肥満の状況を見たところ、特に目立っていたのが男性であること、その中でも40代の男性が目立ってきたので、あえて他の年代ではなく、この年代をピックアップしました。

(委員) これはやはり『男性』と入れた方が良いでしょうか。

(会長) 目標値設定するにあたって絞り込んだのかもしれませんが、現状のデータとリンクしているんですよ？ 県はメタボリックシンドローム該当者予備軍の割合を現状の10%以上減少というような目標設定ですね。同じように書き込むとすると、それぞれ0%の減少を目指すという書き方をするとするのは考えられると思えます。

(委員) 県の方は特定健診のからみで、40代～74歳の人たちということで広く捉えていると思われ。ここで40代男性の目標が5年後ということになると、40代になる今30代の方が肥満にならないような対策と、40代前半の方で今肥満の方を少なくするという対策をとっていくと、きっとこの目標値にいくと思えます。県の方は特定健診がらみなので、そちらの対策と食育を併せてやっていくと減っていくということで、40代～74歳の男性と女性のそれぞれの現状が出ていますので、年齢を絞るとちょっと難しくなるかなという気はしますが、いかがでしょうか。

(事務局) そうですね、今のご意見を聞いて難しくなるかなと思えました。これは、「健康づくり計画」とも整合性をとっているというところもありますので、検討させて頂きたいと思えます。

(事務局) 実は40代の男性というのは肥満ももちろんですが、非常にそれ以外のリスクカウントも多くて、健康状態が一般的に悪いというところもあります。安曇野市でも若い男性に力を入れて保健指導をしていこうという意向もあり、特に他と比べて悪いところを取り上げて頂いた状況だと思います。

(会長) もう一度意見を踏まえてご検討頂き、項目を考えて頂くことにさせて頂きたいと思えます。

(計画の) 前の方の現状のところデータがなくて、課題と方向性のところで、こういう状況がみられますという表現がされているのがいくつかあったような気がするのですが、その辺のデータは

前に示すことはできないのでしょうか。例えば、「幼児期には、朝食は食べているが、食事の内容が良くない、噛めないといった状況がみられます」というものなど。

(事務局) 前の方に載せてはありますが、載せたほうが良いということであれば、データはありますので、グラフ化して挙げていくこともできます。

(会 長) そこまでは必要ないということであれば、このような状況がみられて目標が設定されていたという解釈で皆さんご理解頂けるようであれば、ボリュームも増えてしまうことですので、外しても良いかなと思います。もう一度、全体の計画案のボリューム等も鑑みてご検討頂ければと思います。

(委 員) 「地産地消食育推進事業」の中に、「地元の食材を使った特色のある料理を給食に活用する」とありますが、実際に『特色のある料理』の何か構想があつてここに載っているわけでしょうか。

(事務局) 学校給食が改正され、郷土食をこれから色々提供しますので、それぞれ栄養士等研究して、どういったものを出していくかをこれから考えていくので、これだというのは打ち合わせていません。

(委 員) 安曇野の一番もとなっている郷土の大事な食べ物は『米』で、米のとれなかつた場所では主食に替わるものとして小麦粉や蕎麦粉を使った料理があります。日本中どこでもみんな当たり前前に食べているものですが、ここでそれを食べなければならなかつた土地のことも、やはり食育の中には大事な背景だと思えます。地域でなぜそれが郷土食になってきたのかも含めて、郷土食や伝統食、行事食というものを選んで頂きたいと思えます。

(会 長) その地元食材の伝統というかそういうものを特色ある料理でなくても、伝えるべきことはあるというスタンスで考えて頂けると良いと思えます。郷土の作物についての学びというものを考えて頂きたいということかと思えますが、その辺の表現を含めて考えて頂けると良いかなと思えます。

(委 員) やはり推進計画の中で地産地消というのが、かなり重要な柱だと思えます。用語解説に書かれている通り環境の保全にも良い。あと、地場産業の発展にも繋がりますし、エコにもなります。近くのものを食べるというのは輸送費を減らしてCO<sub>2</sub>の削減に繋がります。そのようなことも含めて、地産地消はエコにもなるというのも前面に押し出して今後進めて頂ければと思います。

(事務局) 今後また、実施マニュアル等のところで織り込んでいきたいと思えます。

(会 長) 色々な視点で、18頁の概念図の中にも「地産地消の推進」が入っていますけれども、それがうまく進むように、学校との関わりもあるでしょうし、色々な形でうまく推進していけるように、皆さまにも考えて頂きたいと思えます。

(委 員) 学童期で朝食を食べる子どもの割合の目標値と主な施策も5つ挙がっていますが、行政としてはこの目標値や主な施策に対してどのようなことを具体的にしていこうと考えているのでしょうか。

(事務局) これから検討していく中でのことになると思いますが、あらゆる場や機会を使ってやりたいと考えています。現在、親子の料理教室を食生活改善推進協議会の方のご協力を得てやっていたり、郷土食で学校へ出向いている場もあります。その都度になると思えますが、そういう時に働きかけをしていければと思います。今後また学校側とも連携をとってやっていければと考えています。

(会 長) 小・中学校共通の「学校・給食センターでの推進」というのがありますが、これは、主な施策の中には入れ込まないで、別枠というか、どういう風に考えれば良いのか難しいですけども。主な施策というのは、行政がやることというような整理の仕方になっているのでしょうか。

(事務局) 行政だけではなく、色んな関係機関と共に連携してやっていくというイメージでいます。「学校・給食センターでの推進」というのは、それぞれの学校単位また給食センターでやることで、ちょっと管轄が違っているので分けて表記してあります。食育自体は私達だけではとても進むものではありませんし、家庭や学校や地域や色んな方のご協力を得ながら進めていくものだと考えています。

(会 長) 色々な機関や組織の連携というのが、やはり大事かと思えますので、実施にあたっては、そういう体制で考えていってくださるということによって受け止めさせて頂きたいと思えます。

(委 員) 地産地消の「生産者との交流を広げていく」ということについて、堀金で5年目になると思うのですが学校給食へ地元の野菜を提供するというのをマイスターと女性農業委員とでずっとやっています。この頃は豊科や色々ところでそういう傾向があります。堀金では生産者からのこれはどんな風に作りましたというコメントを子ども達の給食係に出すと、子ども達から勲章を頂いたりして交流をしています。やはり、それが地産地消を進めていく中でも、大事な交流にもなってくると思うので、地元の野菜を提供するという活動をもっと広げていければ良いと思えます。色々なところで呼びかけてやっていければと思います。

(会 長) 色々な地区ごとに先事例的なこともあると思うので、そういうのを各地区でも共有できる場所はして、安曇野市全体の取り組みとして広げられるかどうかというのも、今後推進にあたっては検討していかなければいけないのかなと思えます。また、委員の皆さまはご関係の方が多くいますのでご協力頂くかと思えますが、宜しくお願ひ致します。

(委 員) この推進会議は今回で終わりますが、今後、例えば食育に関する情報や相談が出た場合、どこに聞けばそれが反映されていくのか、また情報を得られるのでしょうか。

(事務局) この推進会議は任期が2年となっています。今回は計画づくりということをお願いしていたわけですが、今後は、この「食育推進計画」をどのように推進していくかということで、皆さんのお知恵を拝借しながらやっていくということになります。ですから、実際にはどのようにやっていくのかという具体的なマニュアルづくりも庁内で検討しながら、委員さんにもこういう形でやっていきたいというのを今後進めていきたいと思っていますので、宜しくお願ひ致します。

(委員) 市民の人が食育に関する情報が欲しいといった場合に、市としてどこかに窓口をつくるのですか？

(事務局) 窓口は健康推進課になります。

(委員) 歯のことで、青少年期では目標に明記されていませんが目標値はあるので、この時期に何かこういうことが必要ということがあれば書いた方が良いのかどうか、お聞きしたいのですが。

(事務局) 歯というのは、その時々気を付けていかなければならないので、よく噛むことや子どもの内にむし歯を抑えていくというのがあります。その中の経過として『12歳児の一人平均むし歯の数』というのが国際数値であり、この時点で是非クリアしてほしいという思いで、数値として入れました。特に目標としてこの時期にこれをやってほしいことというのは、その前までと同じようなことなので、あえてここには入れませんでした、いかがでしょうか。

(委員) 青少年期だと中学・高校にあたるので、もし共通認識をするなら同じ表現にするのが良いのか、ここで抜けているのも何だろうなど思ったのですが、全体のバランスなどのこともあるので。

(事務局) わかりました。検討させていただきます。ありがとうございます。

(委員) 確かにそこは抜けている。もし入れるとすると、学童期に準ずるような形で、「むし歯、歯肉炎などを予防するための知識を得る」というものに近いものを入れると良いと思います。

(会長) それでは、ただいまのご意見も踏まえて、ご検討くださるということですので、お願いしたいと思います。では、ご意見が一応出たようですので、(1)の協議事項を閉じさせていただきます。

## (2)その他

次回の予定等について

(会長) その他、事務局の方から何かございますでしょうか。

(事務局) パブリックコメント、今後の進め方、ダイジェスト版、来年度の予定についての説明

(会長) それでは、本日も検討頂きたいと思っておりました協議事項2つ終了させて頂きたいと思います。委員の皆さまには色々活発にご意見・ご質問を頂きましてありがとうございました。これをもって終わりにさせて頂きたいと思います。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。